富田林市文化財調査報告 61

中野遺跡

― 倉庫の建設に伴う発掘調査報告（NN2016-1） ―

2017.03.31 富田林市教育委員会

1. はじめに（図１）

中野遺跡の遺跡範囲内で倉庫の建設が計画されたことに伴う調査である。

中野遺跡は富田林市域の北中部にあり、主に石川西岸の中位段丘上に位置している。明治時代に石鏃が発見されたことで遺跡の存在が知られ、近年の調査の進展によって、弥生時代中期の集落跡・古代の集落跡・古代寺院に係る遺物（塔心礎・瓦）を中心に、旧石器時代から中世までの幅広い時代の遺構・遺物が発見されている。

今回調査地は、中野遺跡における弥生時代中期の集落域にあたる。南西隣接地では、1970年度にはビニールハウス建設に伴って遺物・溝遺構が確認されており、1989年度には園芸学校の校舎建設に伴って発掘調査が実施されている。30m北東に位置する1982年度調査地では、弥生時代中期の集落域を画するものと考えられる幅7mの東西大溝が検出されており、大溝の以北では弥生時代の遺構は希薄となる。

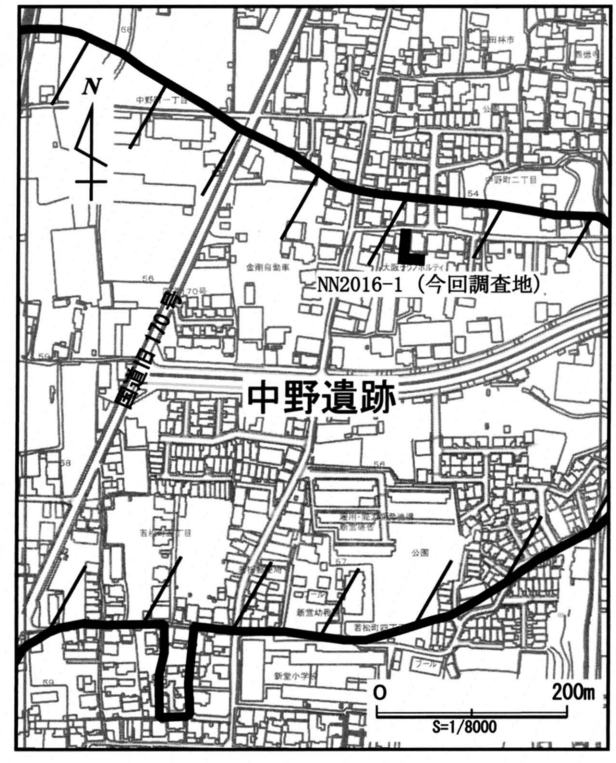
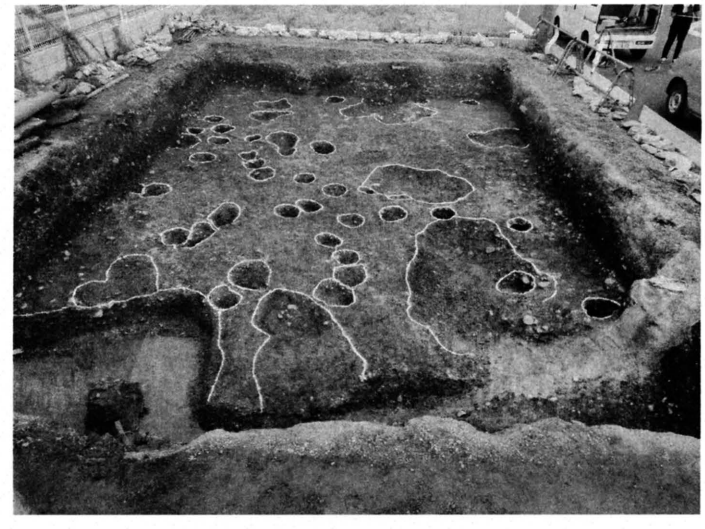


図１　調査位置

2. 調査の方法と基本層序（図２・３）

排土置場・駐車スペース確保などの問題から、建物予定地160㎡を１区（南東側70㎡）と２区（西側90㎡）に分けて調査を行った。1989年度調査、及び2015年度に実施した周辺宅地造成時の事前調査の結果から、古墳時代から中世にかけての包含層と弥生時代中期の包含層が確認されたため、２面調査となった。１区の排土については、排土置場が確保できず、すべて場外に搬出している。

基本層序は、Ⅰ層（盛土）、Ⅱ層（旧耕作土）、Ⅲ層（中世～古墳時代包含層）、Ⅳ層（弥生時代中期包含層）、Ⅴ層（地山）の順である。調査区南側の地山は明黄褐色砂質土であるが、北側は灰褐色砂礫層となる。調査



写１　１区第２遺構面完掘状況（西から）

はⅣ層上面(第１遺構面)とⅤ層上面(第２遺構面・地山面)で行っている。

３.遺構と遺物

第１遺構面(図３)

第１遺構面で検出された遺構は、１区南側中央で検出された弥生時代中期の土器棺墓(SX1)１基のみである。遺構面直上では、古墳時代後期の円筒埴輪片や須恵器が出土しているものの、古墳時代の遺構は検出されていない。調査区全域にわたって、配水管やコンクリート基礎によるかく乱を受けている。

SX1(写２、図４・５)　掘り方は検出時は不明瞭ながら確認できたが、断面観察では捉えることができなかった。土器棺の棺身には生駒西麓産の胎土をもつ甕を、棺蓋には在地系の胎土をもつ台付鉢を使用する。甕下部を北西下方に向け、甕口縁部・台付鉢脚部を南東上方に向けている。甕の底部付近は欠損しており、埋納前に打ち欠かれたものと考えられる。甕・台付鉢ともに遺構面以上の部位は、後世の削平によって破壊され、一部が甕内部の埋土と周辺から出土している。

包含層(Ⅲ層)　弥生時代中期の土器・サヌカイト製石器・剥片が大半を占める。珍しいものとしては、河内Ⅳ様式(弥生時代中期後葉)に属する回転台形土器が出土している。

第２遺構面(写１、図３)

ピット84基(SP1 ～ 84)、土坑13基(SK1 ～ 13)が検出されている。遺構密度は調査区南側の明黄褐色砂質土の地山上では密であり、北側の灰褐色砂礫の地山上では疎となる。

ピット群　柱穴と思われるものの、建物プランの推定には至っていない。調査区南側では南北軸から東に30度弱振れて、東西方向にピットが並んでいる状況が確認できる。出土した遺物はいずれも弥生時代中期中葉から後葉に属する。

SK6-1　東西３m、南北2.5mの隅丸方形の大型土坑である。深さは0.35mで、底面も平坦な隅丸方形である。南北軸から西に約17度振れており、北東隅を除く３隅が検出されている。１区と２区に跨って存在し、南北に貫く汚水管のかく乱によって分断されている。遺物はいずれも弥生時代中期中葉から後葉に属し、一部に河内産とは胎土が異なる他地域からの搬入土器が認められる。

SK10　長径0.75m、短径0.6m、深さ0.3mの円形土坑である。遺物は主に弥生時代中期中葉から後葉であるが、埋土の上層から１点だけ後期前葉の高坏脚部が出土している。

SK12　長径1.7m、短径(残存径)1.3m、深さ0.18mの円形土坑である。西側は前回建物によるかく乱を受けている。遺物は大部分が弥生時代中期中葉から後葉の土器であるが、数点の土師器片を含むため、古墳時代まで時期が下る可能性がある。

包含層(Ⅳ層)　Ⅲ層と同様に弥生時代中期の土器とサヌカイト製石器・剥片が大半を占める。

4.まとめ

今回の調査によって、弥生時代中期中葉から後葉を中心とする遺構・遺物が多数検出された。出土遺物にはサヌカイト製石器・剥片が多く見られ、生駒西麓の胎土をもつものを主とした他地域の土器が3割以上を占める。中野遺跡には弥生時代中期中葉から後葉にかけて石器製作を生業とした集落が形成され、石川流域を通じて中河内方面との交易が行われていたという既往調査の見解を裏付ける結果となった。

今回調査地の北側では遺構密度が疎になっており、集落域の北縁部にあたることが想定される。集落域の状況については、1982年度・1989年度調査をはじめ、周辺で実施された重要な調査に報告されていないものが多く、過去調査も含めて遺構の出土状況を検討していく必要がある。

１区第１遺構面で検出された土器棺墓(SX1)は、後世に削平を受けているが、Ⅳ層(弥生時代中期包含層)の層内遺構と言える。弥生時代中期のその他の遺構はすべて地山上の第２遺構面で検出されている。弥生時代中期末には、今回調査区周辺は墓域となっていた可能性を示唆するものと言える。

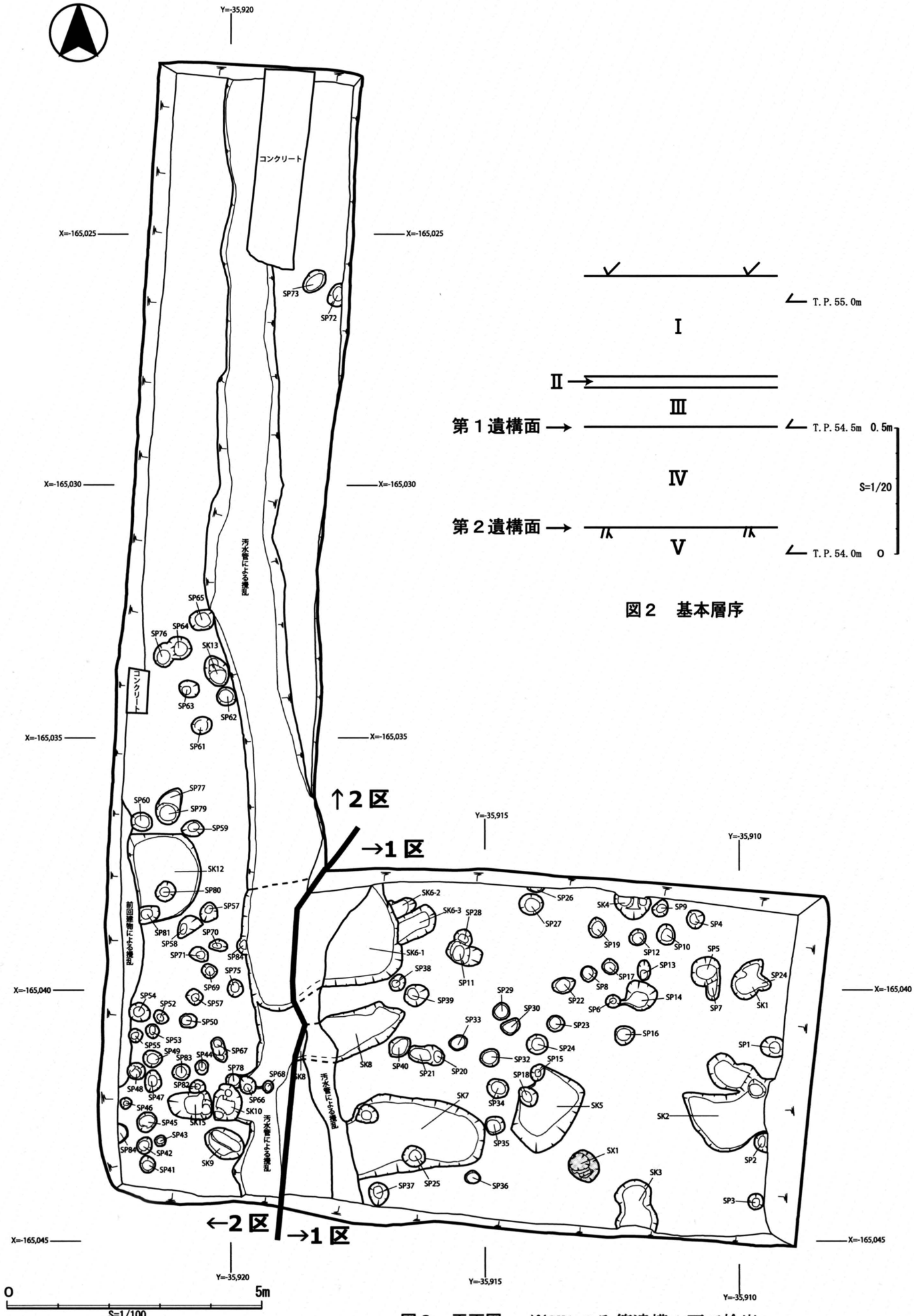
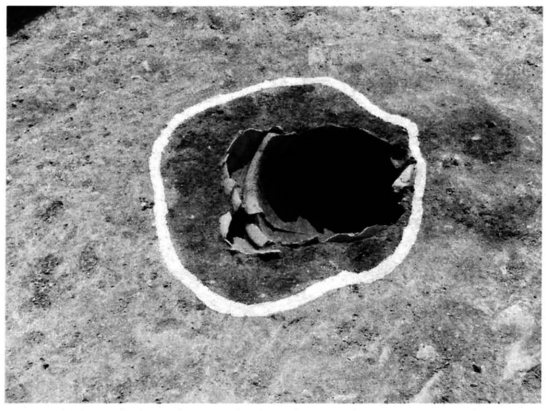


図２　基本層序

図３　平面図　※SX1 のみ第遺構１面で検出。



写２　SX1 土器棺出土状況

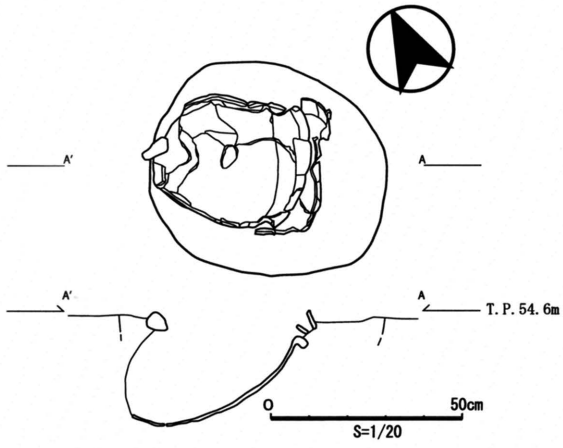


図４　SX1 土器棺出土状況

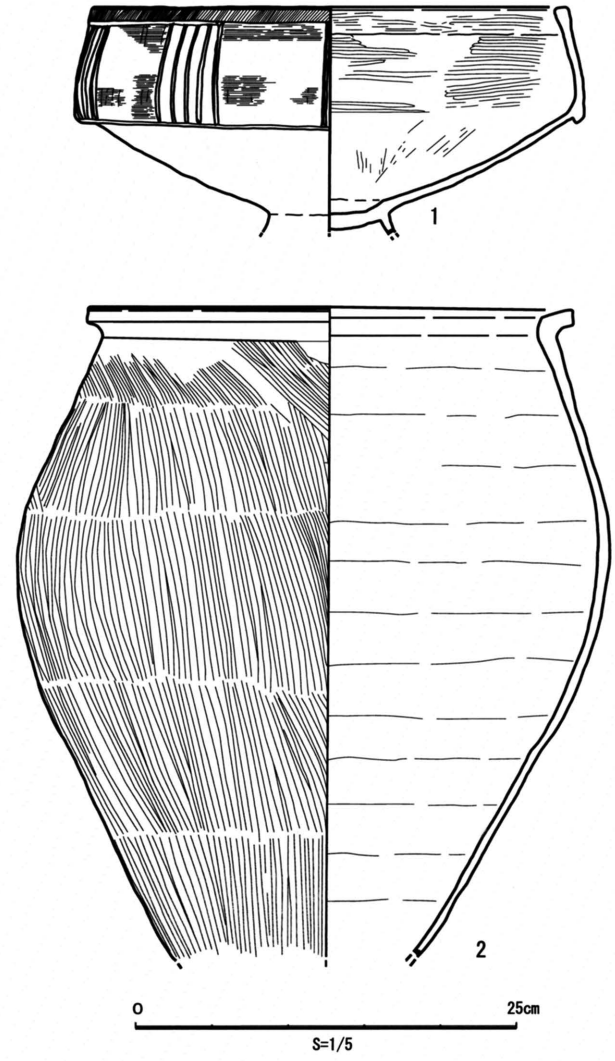


図５　SX1 棺蓋（台付鉢・1）、棺身（甕・2）

報告書抄録

ふりがな	なかのいせき
書名	中野遺跡
副書名	倉庫の建設に伴う発掘調査報告（NN2016-1）
シリーズ名	富田林市文化財調査報告
シリーズ番号	61
編著者名	林 正樹
編集機関	富田林市教育委員会
所在地	〒584-8511　大阪府富田林市常盤町1番1号　TEL　0721-25-1000(代)
発行年月日	2017（平成29）年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	面積発掘（㎡）	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
なかのいせき	とんだばやししなかのちょうにちょうめ	27214	16	34°30′36″	135°30′40″	20160826～20161011	160	倉庫の建設
中野遺跡	富田林市中野町二丁目							

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中野遺跡	集落跡	弥生時代	土器棺、土坑、ピット	弥生土器、石器、須恵器、埴輪	